

ウイルス性肝疾患

1. C型慢性肝炎

C型肝炎ウイルスの持続する感染により肝臓に障害が起こる病気です。6ヶ月以上にわたって肝臓に炎症が続くとC型慢性肝炎と診断されます。放置しておくと長い経過のうちに肝硬変や肝がんに進行することが知られています。現在わが国には100人に1~2人の割合（北九州地区では全国平均より高い）で、C型慢性肝炎の患者さん、あるいは本人も気づいていないC型肝炎ウイルスの持続感染者（キャリア）がいると推定されています。

C型肝炎ウイルスは、血液、体液を介して感染するのが特徴です。それゆえ、感染の経路として重要なものは1980年代以前に行われた輸血です。また、医療行為（手術、注射等）によって感染するケースもあります。その他、母親からの感染、性行為による感染等があげられますが、感染の経路を調べても分からないケースもあります。

症状としては、慢性肝炎はこれといった自覚症状がないのが特徴です。進行すると全身のたるさや、疲れやすさ食欲不振を感じる程度です。血液検査で、肝臓の細胞が壊れたときに血液中に出てくるAST(GOT)、ALT(GPT)という酵素の値が高いと肝炎が疑われますが、C型肝炎ウイルスによるものかどうかは、さらに調べる必要があります。感染していても、必ず酵素の値が上昇する訳ではない事に注意しなければいけません。

C型慢性肝炎は大部分が進行性で、慢性肝炎が続いていると肝硬変、肝がんへと進んでしまうので、定期的な検査や治療が必要となってきます。

治療法は大きく分けて2つに分けられます。C型肝炎ウイルスそのものを治療しウイルスを排除する原因療法と、慢性肝炎の悪化を防ぐ対症療法（肝庇護療法）です。原因療法の主役はインターフェロンで、内服の抗ウイルス薬を組み合わせる治療法が最も多く行われています。対処療法としてはグリチルリチン配合剤（注射、内服）とウルソデオキシコール酸（内服）があり、酵素の値を下げ肝炎の悪化を防ぎます。患者さんによっては、無治療でも酵素の値が安定されている方もいます。

原因療法であるインターフェロン治療は、ウイルスのタイプや量により治療期間（24週間か48週間）、インターフェロンの種類や内服の抗ウイルス薬を併用するかどうかが変わってきます。効果もウイルスの状態や患者さんの肝臓の状態や年齢によって変わってきます。一番多く行われているのは、週1回のインターフェロン皮下注射に抗ウイルス薬を毎日内服してもらう方法です。24週間、48週間、長い患者さんでは72週間の治療となり、外来での治療が中心となります。

インターフェロン治療は様々な合併症が知られており、発熱や食欲低下といったほぼ全ての患者さんに起こるものから、間質性肺炎などの稀ですが、重篤な副作用もあります。当科では、それぞれの患者さんの治療に伴う副作用の危険性を十分に調べ把握し、患者さんに十分説明してから治療することを心がけております。また、原則として効果と副作用を把握した肝臓専門医の下に治療を行っております。

2. B型慢性肝炎

B型肝炎ウイルスの持続する感染により肝臓に障害が起こる病気です。6ヶ月以上にわたって肝臓に炎症が続くと、B型慢性肝炎と診断されます。C型慢性肝炎同様に、肝硬変や肝がんに行進することもあります。C型慢性肝炎と異なる点の一つは、慢性肝炎が進行しなくても肝がんを合併する場合があります、注意を要します。

B型肝炎ウイルスが感染する経路は、急性肝炎の場合は性行為や汚染針の使用などからです。大人の急性肝炎が慢性化する率は1~2%です。わが国には現在120万人前後のB型肝炎ウイルス持続感染者が居られますが、そのほとんどが、3歳未満の時の感染、特に母親から感染し、抵抗力が弱いためにウイルスを追い出すことができず、持続感染が成立したものです。多くの患者さんは抵抗力が発達した20歳前後で肝炎を発症します。

肝炎を発症すると、そのうちの80~85%はそこでウイルスの増殖が停止し、肝炎は鎮静化しますが、残りの15~20%が慢性肝炎に移行します。

症状はC型慢性肝炎と同様です。C型慢性肝炎と異なり経過が患者さんにより非常に多様です。定期的な検査のみですむ場合や様々な治療が必要となる場合もあります。また、急激に悪くなることもあり注意を要します。

治療法のうち原因療法としては、現在では抗ウイルス薬（内服）が中心となってきました。様々な条件を満たす場合に、C型慢性肝炎同様にインターフェロン治療（注射）を行います。対症療法はC型慢性肝炎と同様で、グリチルリチン配合剤（注射、内服）とウルソデオキシコール酸（内服）が中心です。患者さんによっては、特に加療をしなくても、酵素の値が安定する人もいます。

この様に、患者さんによって経過や日々の状態が変化する可能性があり、治療はB型慢性肝炎の治療経験が豊富な肝臓専門医の下に行われます。